

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-62693

⑮ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)3月2日

G 07 F 7/08
B 42 D 15/10
G 06 K 17/00
19/00

5 5 1 B
R 6548-2C
6711-5B

6929-3E G 07 F 7/08
6711-5B G 06 K 19/00

L
U

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 使用履歴表示プリペイドカードシステム

⑯ 特 願 昭63-213560

⑰ 出 願 昭63(1988)8月30日

⑱ 発 明 者 西 村 英 樹 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 戸 田 坦 外2名

明 細 書

あることを特徴とする使用履歴表示プリペイドカードシステム。

1. 発明の名称

使用履歴表示プリペイドカードシステム

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は前払い方式のプリペイドカードに関する。

〔従来の技術〕

代金前払い方式のプリペイドカードは、使用額又は使用回数を減額した残額をカードに記録しておき、利用者は残額がなくなる迄反復利用することができる。その際、利用者は残額と使用額の両方を専用の機器を用いることなくカード自身から知る欲求がある。現在は残額のみをカード面に表示する方法が実用化されている。

その表示方法の1つはパンチ穴又はサーマル印字による目安表示であり、他の1つは残額をそのまま印字する実績表示である。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかし、利用者にとってはカード使用時のその

2. 特許請求の範囲

1. 代金前払い方式のプリペイドカードとリードライトを含むプリペイドカードシステムに於いて、

前記プリペイドカードは使用額又は使用回数を差引いた残額を記憶する記憶と印字可能なカード面の領域とを具備し、

前記リードライトは、前記プリペイドカードの前記記憶に対し読出書込を行なう第1の機能と前記カード面の領域に印字又は刻印する第2の機能と前記残額に係わる計算を行なう第3の機能を有し、前記カード面の領域に前記使用額又は前記使用回数を印字し、前記残額が予め定められた一定額又は一定回数を下回った時点で予め規定された形状のマークを印字又は刻印するリードライトで

時々の使用額や使用回数も大切である。

プリペイドカードに残額のみを表示するということは使用額については別途レシート等を発行する形となり、キャッシュレスは実現できてもペーパーレスには至っていない。また、利用者にとって残額は残額が少ない場合にのみ重要であり、残額が少ないということを一見して判断できる表示を提供する必要がある。

すなわち本発明は、残額が少ないということを一見して判断できる表示を可能とするプリペイドカードを提供しようとするものである。

〔課題を解決するための手段〕

そこで本発明のプリペイドカードは、代金前払い方式のプリペイドカードとリーダーライトを含むプリペイドカードシステムに於いて、前記プリペイドカードは使用額又は使用回数を差引いた残額を記憶する記憶と印字可能なカード面の領域とを具備し、前記リーダーライトは前記プリペイドカードの前記記憶に対し読出書込を行なう第1の機能と前記カード面の領域に印字又は刻印する第2の

を成し、残額を磁気ストライプ3上に記録するとともに、印字領域4に使用額又は使用回数を印字する。

リーダーライト20は、情報処理部21と、カードの吸入、排出、位置決めを制御するカード吸入排出部22と、磁気ストライプ3の読出書込を行なう読出書込部23と、印字領域4に印字する印字部24と、表示部25と、使用額を含む情報を決済システムに通信する通信部26とから成っている。情報処理部21は22～26の5つの部分の制御や情報処理を行なう。

第2図はリーダーライト20の外観図で、操作の観点から記述し筐体11とカード挿入口12と残額又は使用額を表示する表示面13と操作ボタン14とを含む。

本実施例では、金額Aで購入したプリペイドカードは最初の使用後使用額5(第1図)が印字され、使用のたびに下に向かって印字が行なわれる。そして金額Bを境界にして残額が金額Bより大きいか又は等しい場合迄続けられ、使用額6に達し

機能と前記残額に係わる計算を行なう第3の機能を有し、前記カード面の領域に前記使用額又は前記使用回数を印字し、前記残額が予め定められた一定額又は一定回数を下回った時点で予め規定された形状のマークを印字又は刻印するリーダーライトであることを特徴とする。

〔実施例〕

本発明の一実施例について示す。

第1図は本発明の残額目安表示プリペイドカードシステムの構成図、第2図はリーダーライトの外観図である。

第1図を参照すると、プリペイドカード1の形状は現在JIS規格、サイバネ規格等が実用化されているが特に注目しない。その表面にはプリペイドカードの残額を記録しておく磁気ストライプ3と使用額又は使用回数を印字する印字領域4を含む。カード裏面2は商標やデザインの領域とする。

プリペイドカード1の表面においては、最初前払い金額に応じた金額又は回数を磁気ストライプ3上に記録し、使用のたびに使用額又は使用回数

たとする。そして次の使用で残額が金額Bを下回った時点で、あらかじめ規定された形状のマーク、この場合星印7を印字又は刻印し、その時の使用額8も印字する。

金額Bは、残額が少なくなったことを利用者に伝える基準となるもので、予め定められた一定額であり、1回の平均使用額の数回分を仮定している。

〔発明の効果〕

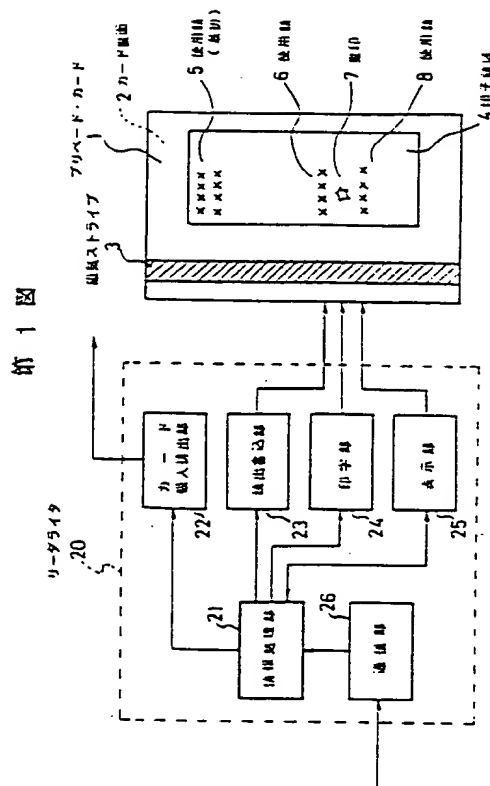
本発明においては、プリペイドカードに使用履歴を表示することにより、使用額又は使用回数をそのまま印字するので利用者は目視で直接にチェックでき、領収書やレシートの代りとなってペーパーレス化でき、カードの記憶に記録されている残額と使用額の累積によりカードが正しく使用されていることをチェックでき、残額が少なくなった場合の注意を特殊マークを印字することにより視覚に訴えることができる。

以下余白

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の使用履歴表示プリペイドカードシステムの構成図、第2図はリーダライタの外観図である。

記号の説明：1はプリペイドカード、2はカード裏面、3は磁気ストライプ、4は印字領域、5は使用額、6は使用額、7は星印、8は使用額、11は筐体、12はカード挿入口、13は表示面、14は操作ボタン、20はリーダライタ、21は情報処理部、22はカード吸入排出部、23は読出書込部、24は印字部、25は表示部、26は通信部をそれぞれあらわしている。



代理人 (7783) 井理士 池田 憲保



第2図

